

工場
電六六三四
平市白銀町

平 店 でんわ (平) 7171
小名浜店 でんわ (磐城) ② 4191
植 田 店 でんわ (勿来) ② 2171

異議申立書作製近く陳情

申立書を作製 大和田市長に陳情することになったが、特に平貨物駅が近く内郷に移るのでその園鉄用地二千坪を市が買収して換地問題を解決し関係者の犠牲を最少限度にして欲しいと要望している。陳手な意見を吐くことでしよう

私共は死活の問題です。少くとも平市が示した条件のもとでは絶対に承服出来ない、この事業遂行に当り自分の身にいさぎが関係もない人からみれば傍観的態度で見過し、狭い平駅前に市発展はないと勝手な意見を吐くことでしよう

弱いのには借家人です。いま市が提示した無保証にひとしい無責任きわまる条件により駅前を去り現在の鉄道官舎跡に行くことになればどうなるのでしょうか。それだけでなく金満の庄迫をつけ蓋しい商売に悩んでいる借家

平駅前都市計画区画整理事業原案は地域選出の審議委員によって今回審議終了し、三月一日より関係者に閲覧の公示がありました。 今まで、私共関係者は審議委員でないのに、その詳細については「うわさ」だけで知ることが出来ませんでした。今回の従覧によって計画の全容を知ることが出来ました。が色々検討の結果、この計画案	火事とケンカは江戸の華とかなって多くの市民はこの計画案を強く押すことですよ。 しかし、この様に対岸の火事視していたことが自分の身に振りかかった時の事を考えてみて下さい。誰でも真剣に考えるのが当たり前であることは市長様あなた自身もよくお判りのことと思います。 少くとも現在よりよくなることを念うのは人情の常です。	人の立場は全く深刻な問題です。 そこで二つ問題の解決策として希望的な提案を申し上げます。現在 平の貨物駅の集中駅として内郷に移ると聞いておられます。しかも国鉄はこの用地三坪を売却したいとの意向の様に聞いていますので、この用地を市は積極的に買収してここに換地を提供す	れば駅前の換地問題となつては駅前
---	--	--	-------------------------

鈴木光四郎

信正の一命は失われたかと思　信正の剛胆さには敬服したと　近衛蘭白に提出した。
われたが、幸にも切先は信正　いわれている。
四月十一日

の背部にかすり傷を負わせたに過ぎず、一命をとりとめることが出来た。信正は鶴駕より降りて悠然として徒歩で坂下門に入った。負傷を手当のまゝ外国使館と云談した。

文久二年三月十六日

信正は再勅の決意を固めて登城した。その折、鹿兒島藩主島津久光は藩兵千余名を率いて京都に入り老中安藤対馬守の退職を要求する建白書を

信正は時勢の非なるを悟て、老中加判の列を罷免せしめ、れん事を頗り許されて同日、溜詰格に下つてしまった。

八月十六日

信正は勅役中不正の取計に

このことについて市当局に意見を言うと、あれは第二次計画だと言ひ、或いは又この計画案に建設省の許可を得てしまったので、駄目だとも言ひ決して受け付けようとしなからう。なぜに駄目なのでしょう

市民の意志にそった計画をやり直すところ、血のかよった政治であり民主政治の大綱であり、天下りの今次の区画整理案は許容できまじん有力な審議委員の意見を聞く、市の計画案は下手な絵

かきか画いた絵で直しようもなく、貨物駅の移転を含めた計画案をたてるべきなどの提言に対しては建設省の許可をもらっているこの一点張りである。独自の見解だけで遂行しようとしており、市の誠意は全く

ないと断言したい。
犠牲は公平で公正であるべき
条件にあるべきであり、市発
展のために駅前市民だけの
犠牲をしいることは納得でき
ません。
地主関係の換地についても駅
前の一〇〇〇にに対し官舎跡が

七〇〇、いわゆる駅一万円だ
 ったら官舎跡は七千円とい
 うであらう。

信正の晩年

老中として、幕府の最高責任者として黎明日本の外交に活躍した安藤対馬守信正が、坂下門の変に失脚して失意のうちに磐城平に帰ったのは、戊辰（明治元年）三月であつた。しかも、皮を待つものはな

戊辰の役であつた。徳川幕府

事故でも八時間給水

鎌田山に配水池造る

平水水道部は四十一年度事
として鎌田山浄水場の配水
新設を中心に事業費五千五
万円を三月市会に上程決議
した。

白土から南白土まで配水管
千六百四メートル延長する
この事業費は二百六十七万
円である。

他の模範に

平署に警官が百三十八人いるが、この八十九%の百十三人が自動車の運転免許を持っている警官の交通事故が多くなると、このほか平署運動運転委員会が発足した。同運動委員会が委員長を願

これは鎌田山淨水場の配水量
万五千トンの三分の一を確
保することに、事故が起
っても八時間の配水能力を備
える。

このほかの主な事業は、平
の都市改造重点事業である
団地造成計画と平下比
に伊藤次長が会長、副会長
川交通課長、幹事に八巻警
係長、福地部長、小池巡查
長、運動技術の向
人格の向上、他の運動
の模範になるよう努力する
とになっている。

譜代大名として或は老中と
幕府の維持に努力した彼
等、宣量と一戦を交えること
をむを得なかつたのである
明治二年八月
戊辰役に敗れた信正は、
三才、東京麹町の栖皇院
に遷された。後に栖皇院は移転
して現在は東京都杉並区下町
戸一の六六に在る。信正の
号は謙徳院殿秀善法嚴龜鶴
居士とおくれた。

詔で長閑の風情によって警城へ復帰を命ぜられた。同年一月、勅應を以て永塾唐を免られ、世の開明を閑地に見ながら三年有余の風月を楽しんだ。
 明治四年十月八日
 信正は最長逝した。時に五十
 一世の大政治家安藤鶴一
 信正は、先に頼米平和外交に
 策を実行した公武の合流
 はかつて幕末の難局を処理
 黎明日本の文化の発展に寄
 したが、彼の生涯は文字通
 波乱のうちに終ったのであ
 （昭和三十九年十一月記）

(昭和三十九年十一月記)

季節の料理
かなべめし

壽司の江戸

金庫 書庫 レジスター 計算機 事務機



金庫商會
 平市三十米通り
 TEL 2631・3352

四
倉
で

町民プール
四倉町四倉中学校敷き地に
供なと
目店
23
合

一期工事の人札は住友建設工
 業会社にきまり、千七百五十
 円を要する。「四倉町民ブル」第
 一に掲げた篠光道郎治にも参
 加した。

子ク基
 い一と
 愛二雀
 可ユ
 麻三
 丁
 電 57

ひやくと

百

万円で、町でこのほど着工した。五十メートル九コースで町では公認プールを予定している。この町民プールの実現は町民の長い間の念願で、とくに四倉中PTA（佐藤真之助会長）は、さきにプール建設の前提条件としてプール用品品一

新しいセンスの
 ハンドバツク

二丁目店
 電話 5722

美を造るおしゃれの
 信販・平専問店会加盟店

水源の井戸を十五万円の会員
寄付で完成、こんどは建設資
金の一部に百万円を町に寄付
した。

洋 粧
化 アクセサリ

大通 駅前
572 電

美の 総合
の平 ツットのチケ

よい時計・よいメガネ・

木毛

平市・二丁目TEL. 9

おいしい

市川ハシ店

平市中央通り 電二九三六
三十米通り支店 電五九一三
工場 旧城跡 電五九〇六

平名物手づくりの味
いわきあられ

味覺堂

寧市古銀治町古
眞田昌秋
電話二二九二二

新発売 万寿鯛焼き 二コ25円
甘太郎新価格 二コ25円

甘左郎燒

眞根井菓子店
平市銀座通り 電四〇二五

品
○
記念する

晨
凡

電 2, 5

銀葉

六

